

平家ゆかりの 地を訪ねて…

たかくらじんじゃ もちひとおう 高倉神社と以仁王



たかくらじんじゃ
高倉神社
(山城町綺田神ノ木48)

平安時代末期(12世紀)の後白河法皇の第二皇子以仁王(もちひとおう)を祀る神社で、隣接して以仁王の御墓があります。

『平家物語』によると以仁王は、治承4年(1180)に平清盛とその一族の追討を命じる令旨を諸国の源氏勢力にあてて出しました。このことが露見したため平家に追われた王は、南都の興福寺をたよって都を落ちる途中、この地「光明山寺の鳥居の前」で流れ矢に当たって落命されたとあります。後に王の御霊を祀ったのが、この神社の起こりです。

もちひとおう 以仁王(1151~1180)

後白河法皇の第二皇子。源頼政と共に挙兵した際に「以仁王の領旨」を出し、全国に散らばる源氏一族に平家追討を促した。邸宅が三条高倉にあったことから、高倉宮(たかくらのみや)と称された。

あみだじ つつじょうみょうづか 阿弥陀寺・筒井浄妙塚

付近には、王落命の祈りに仏事を営んだとされる阿弥陀寺や、都を落ちる王に従って宇治橋の合戦で活躍した武勇の僧、筒井浄妙の墓と伝える塚(浄妙塚)があります。なお、現在、浄妙塚は陪家(ばいちょう)として以仁王墓とともに宮内庁が管理しています。

Access JR玉水駅から2.1km(徒歩約23分)または、コミュニティバス山城線「神ノ木」下車、徒歩約3分



あんぶくじ たいらのしげひら 安福寺 - 平重衡終焉の地 -



あんぶくじ
安福寺
(木津宮ノ裏274)

本尊の「阿弥陀如来像」は東大寺・興福寺を焼き打ちにした平重衡が文治元年(1185年)6月、木津川河原で最後に拜んだ引導仏と伝えられ

ています。本堂は重衡を哀れんだ村人により「哀堂(あわんどう)」と呼ばれ、200~300年後重衡を埋葬した場所に現在の十三重石塔が建てられたと言われています。

たいらのしげひら 平重衡(1157~1185)

平家一門を繁栄させた平清盛の五男。母は清盛の継室平時子。平氏の大將の一人として各地で戦い、南都焼討を行って東大寺大仏や興福寺を焼亡させた。一ノ谷の戦いで捕虜となり鎌倉へ護送された。源頼朝は重衡の潔さに感銘を受け、鎌倉にいる間は最大限の配慮を持ってもてなしたと言われている。しかし、焼き討ちにあった南都宗徒の強い要求で奈良に引き渡され、文治元年(1185年)6月に木津川畔で斬首された。

ならすがき くびあらいいけ 不成柿と首洗池

この世の名残に柿を食べた重衡を哀れに思った里人がその柿の種を植えたところ、実の成らない柿の木になりました。「不成(ならず)の柿(かき)」と呼ばれたその木に実がなると戦争がおこるといふ昔話も伝わっていましたが、今は代替わりし秋になると小さな実が沢山成ります。また「不成柿」の近くには、河原で切られた重衡の首を般若寺にさらす際に洗ったと言われる「首洗池」があります。いずれも安福寺の西で、今は木津川堤防とJR奈良線の脇にひっそりとあります。

Access JR奈良線「木津駅」より徒歩10分 または、コミュニティバス<木-2>「宮の堀」下車すぐ

